

# キャリア教育の要としての特別活動の実践とは？

新学習指導要領がいよいよ4月から全面実施となります。先行実施をしている特別活動においては、キャリア教育の要として大きな役割を果たすことが総則に明記され、学級活動の内容の取扱いの中で学級活動(3)の指導に当たっては「児童が活動を記録し蓄積する教材を活用する」ことが示されました。

「キャリア・パスポート」の導入を目前にして、改めて「キャリア教育の要としての特別活動の実践」とは何かを、安部恭子先生に伺いました。



安部 恭子 (あべ きょうこ)

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

## 「キャリア教育の要」とは？

特別活動では、教科の学び、学校生活、家庭生活、そして特別活動における各活動・行事の学びをつないで活用するとともに、これまでの自分の成長や頑張りを振り返り、次の学年に生かすなど、実生活や実社会で活用する凡用的な力を育みます(上図参照)。

学習指導要領では、「学級活動」3内容の取扱い(2)で、「2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と示しています。

ポートフォリオ的な教材、いわゆる「キャリア・パスポート」を(3)の授業の中で活用する時間であることも、要としての大きな役割といえるでしょう。

平成31年3月、文部科学省児童生徒徒課から「『キャリア・パスポート』例示資料等について」という事務連絡文書が発出され、「『キャリア・パスポート』の様式例と指導上の留意事項」が示されました。

子どもたち自身がこれまでの生活や学習を振り返り、「なりたいたい自分に向け

て、これからどんなことを頑張っていこうか」と将来への展望を図るためにこの「キャリア・パスポート」が必要になってきます。

「キャリア・パスポート」には、各教科等の学びを総合的につなぐ役目があるだけでなく、小・中・高をつなぐ役目もあります。さらに、子どもたち自身が書くことで自己理解を深めること、先生方が児童理解を深め、指導の参考にするにつながり、子どもと教科をつなぎます。

## 「キャリア・パスポート」の留意点は？

令和2年4月から「キャリア・パスポート」を全校で導入するわけですが、教育委員会によっては、様式を示すところもあると思います。そうでない場合、様式例を参考にして取り組まれると思うのですが、これまでも例えば、めあてカードや振り返りカードなどポートフォリオ的なものに取り組んでいるので、今までの取り組みを大切にしてくださいと思います。

子どもたちの学びがさらに高まり、前向きに頑張る力につながるために、1年間積み重ね中学校の参考意見を生かすなどして、よりよいものにしてほしいと思います。

# 楽しい 学校生活

## 1～6年

特別活動の  
テキスト

と

キャリア教育の  
ポートフォリオ

### 2つの要素を兼ね備えた 児童用教材

小学校の特別活動の重要度が急上昇中。全教育活動の基盤となる特別活動のテキストと、キャリア教育に生かせる子どもの生活の記録が一体となった本教材が、子どもたちの「楽しい学校生活」を実現します！

こんな教材が  
ほしかった! と

大好評

※本書は、文溪堂特約代理店へご用命ください



#### 児童書

- 1～6学年：A4判オールカラー／64ページ
- 各学年 500円＋税

#### 教師用指導書

- 1～6学年：A4判2色／32ページ
- 各学年 1500円＋税
- ◎年間指導計画や学習指導案、提示用資料、ワークシートなどを収録したCD-ROMを付録

発行：株式会社文溪堂

キャリア教育は学校教育全体で行いますが、学級活動(3)に視点を当ててみると、年度当初の「〇年生になつて」の題材で、「これまでの自分はどうだったか」「こんなことを頑張ってきた」「こんなことができるようになった」というように自分を振り返る際に、「キャリア・パスポート」を活用することが考えられます。例えば3年生であれば「1年後こんな4年生になりたい」とか、「こんな3年生の1年間にしたいから、自分は〇〇を頑張る」という目標を話し合いを生かして明確にもち、「キャリア・パスポート」に書いて、実践します。

また、集団宿泊的行事などでこれまで見えなかった友達の様子が見えたり、自分の新たな面に気づいたりすることもあります。このようなことを「キャリア・パスポート」やポートフォリオ的な教材に「あのときこんな気持ちだった」と記しておき、その後の生活に生かすことも考えられます。

今の子どもたちはとても折れやすいし、自尊心が低い。自己有用感や自己効力感は、人と関わり合ったり、集団の中で役割を果たしたりする中で、自分のよさを再認識することで高まっていきます。なりたいたい自分に向けて努力したことについて先生や友達から声を掛けてもらったり認めてもらったりすることも大切です。「キャリア・パスポート」はぜひ、子どもたち自身が自分のこれまでの頑張りに気づいたり、またつまづいたときに、「あのとき、こういうふう頑張ったな。よし頑張ろう」と振り返ったりして新たな意欲につなげることに活用していただきたいと思えます。「頑張った、友達と一緒に乗り越えた」という経験や、「自分もやればできる」と実感することは、前向きに生きていく力につながります。



### 自己実現に生かすとは？

そのために学級活動(3)の授業で、しっかりと活用してほしいのです。ただ書くだけではなく、それを基に振り返り、話し合いを生かして子どもたち自身が「何を頑張るか」「どんなことに取り組んでいくか」「どんな自分になりたいのか」といったことを自分で意思決定して粘り強く頑張っていく、そんな時間にしてほしいと思えます。

これからの時代は、未来が見通せない、決められた問いと答えばかりではないからこそ、なりたいたい自分やよりよい自分がしっかりとイメージできることが求められます。そのためには、目標をきちんともって実践し、振り返りを次の課題解決に生かすことが必要です。「キャリア・パスポート」を活用しながら、成長の歩みを実感し、大きくなったときにその歩みを見返すことができるのは価値のあることだと思います。

これから先には辛いこともあるでしょう。でもそんなときに、「あのとき、こんなことを頑張った」「友達と一緒にやったからできた」という集団活動での学びを生かしてほしい。人との関わりの中で、「自分はこんなことを頑張った」「自分にはこんなよところがある」ということを実感し、集団や社会の中で自分のよさや可能性を発揮できるようになっていく、なつてほしいと思えます。

特別活動の特質は集団活動を通して学ぶことです。いちばん身近な社会である、学級・学校生活に目を向けて、自分たちで話し合つて問題を解決したり、目標を立てたりする。友達と協働して何かをやり遂げる。学校行事を通して、道徳の時間に学んだ道徳的価値を実感する。このような特別活動における集団活動の価値を見直しつつ、「キャリア・パスポート」を活用し、子どもたちがなりたいたい自分に向けて努力し、自分らしい生き方の実践につなげられるようにしてほしいと思えます。